

第2学年1組 社会科

高速交通網の整備が地域に与える影響を考察する授業実践

ー 日本の諸地域「中国・四国地方」における本州四国連絡橋の開通前後の地域の変容に焦点を当て、生徒の思考をゆさぶる教師の関わりー

伊部 雅之

今年度の社会科は「未来に生きる資質・能力を育む社会科学習」を研究主題として授業研究を行ってきた。ここでの「未来に生きる資質・能力」とは、持続可能な社会を目指そうとする私たちが自立的に生きるために必要な公民的な資質・能力を指す。

日本の諸地域「中国・四国地方」の単元では、本州四国連絡橋に焦点をあて、その開通前後における地域の変容から高速交通網の整備によるメリット・デメリットという社会的な見方・考え方を身につけることを目的としている。私たちが住むこの福井県は、2023年春に北陸新幹線が金沢から敦賀まで延伸することになっている。(ただ、1年以上遅れると言われている。)生徒にとっても私にとっても、高速交通網の整備による影響を考察することは、高速交通網の整備と持続可能な経済発展に関わろうとする社会科における資質・能力を育むためには必要な見方・考え方と思っているし、新幹線が開通する福井県民にとっても、その開通をプラスにしていこうとする姿勢につなげていかなくてはならないと考えている。

まず、この単元の導入では、「高速交通網とは？」の問いかけから始めた。そして高速交通網の整備の影響を考えさせ、生徒達が持っている見方・考え方を見取るところから実践がスタートした。

1. はじめに

生徒の思考にゆさぶりをかけながらの授業展開に教師がどのように関わるべきか。

「中国・四国地方」は、高度経済成長期において、国内でも過疎化が顕著に表れてきた地域である。中国地方では、山陰地方から広島市をはじめとする瀬戸内地方の年への人口流出が起り、過疎化や都市問題が顕在化してきた。また四国地方においても、本州と四国をつなぐために国鉄のフェリーが長年運航されてきたが、天候に左右されることも多く、四国地方が陸の孤島になることもしばしばあった。さらに修学旅行中の小学生を乗せたフェリーが沈没して多くの犠牲者を出す事故も発生していた。

四国地方の人々にとって、本州と四国を橋で結ぶことはとてつもなく大きなことを意味することになる。そのような中国・四国地方にとって両地域が橋で結ばれることや、都市部と山間部をつなぐ高速道路が整備されることは、その地域に大きな変容をもたらす。

社会科として、生徒に考察をさせたいが、根拠を生徒の思考のみの予想だけでは社会科としては十分ではない。やはりエビデンスとなる資料を基にして考察し、根拠を明らかにして意見をつくる必要がある。前述したように中国・四国地方の場合、本州四国連絡橋が開通してから数年が経っており、経年比較ができる資料が存在する。だからこの単元の展開において、その資料の提示までをいかに授業者である私がコーディネートし

ていくかが重要となる。そして本校の研究主題でもあるAgency(生徒が主体的に、責任を持って行動しようとする資質・能力)を育むためには、生徒と教師が「共に創る」授業をどのように実現させ、教師がどのように関わって行くべきかを考えた。

私が担当する2学年は、男子生徒を中心に社会的な見方・考え方を生かして思考することができる生徒が多い。それらの生徒の発言から授業が展開されることもしばしばある。そんな中であって、ある女子生徒(以後:Aさん)と歴史分野の「武士の台頭」の授業を行う導入の場面で、時代区分を確認した時にこのようなやりとりがあった。Aさんは、まだまだ歴史の流れが、定着できていないので、年表等で調べないと書くことができない。だから年表を確認しながらノートに書いていた。その後クラスで確認し、「縄文→弥生→古墳・・・→平安」と板書をしたところ、Aさんが「全然、イメージができない。」と言ったので、それぞれどのような時代であったかを今一度振り返ることにした。授業終了後Aさんは、「先生、イメージできるようになりました。」と笑顔で私に言ってきた。Aさんは社会科が決して得意ではない。しかしAさんの「つぶやき」も授業を展開していくうえで、必要なパズルのピースとなる。そんなAさんは授業に前向きに取り組み、いろいろな考え方を少しずつできるようになってきている。Aさんがこの単元を通して、社会の見方や考え方にどのような変容が見られるかと思い、Aさんの発

言、つぶやき、ノートの内容を中心に、Aさんを含め3人のグループを見取っていった。

2. 学びの実際

(1) 導入(「高速交通網の整備」に対するクラスの実態把握)

教師「ノートを広げて下さい。ノートに私たちが移動する時に使う交通手段を思いっただけ書きなさい。」

クラスで共有した交通手段は次の通りである。

☆いろいろな交通手段①

- ・車 ・自転車 ・徒歩 ・バス ・地下鉄
- ・船 ・バイク ・タクシー ・新幹線
- ・飛行機 ・電車 ・モノレール
- ・ヘリコプター ・ジェット機 ・ロボット

一通り指名・発表をさせてから、「他にないか？」とさらに問いかける。するとだいたい次のような回答がいろいろつぶやかれる。

☆いろいろな交通手段②

- ・水上バス ・スケボー ・三輪車 ・泳ぎ

ここで、再度問いかける。「この中で高速交通網は？」

☆高速交通網

- ・高速道路 ・新幹線 ・飛行機
- ・リニアモーターカー

さらに、新幹線が出てきたところで、「新幹線と言えば、福井県に通るのを知っていますか？」と問いかけると、クラスの大半が知らない様子である。「いつ」「どこからどこまで」新幹線が開通するのかをクラスで確認した。

「さて、改めてみなさんに聞きますが、新幹線をはじめとして、高速交通網が整備されるとどのような影響があると思いますか？」

Aさん：お金が入る。 来る人が増える。
交通時間の短縮。 駅前が賑わう。

Wさん：福井県、福井市の財政がよくなる。

Tさん：都市部からの移動時間短縮で観光客が増える。(県外からも県内からも)

クラスのほぼ全員が高速交通網の整備をプラスに捉えている。ここで、「中国・四国地方」の地図を提示し、県名・県庁所在地名を確認し、さらに教科書参考に地形を記入させた。また気候についてもその記入した地図を使用した。中国・四国地方は「中国山地」「四国山地」に大きな影響を受けることに気づかせたかった。その地図と教科書の人口分布図を見比べて、中国・四国地方の人口の偏

よっていることにも気づかせた。

☆人口分布

(集中している) 瀬戸内海に面している都市
(過疎化している)

中国・四国山地の山間部

(2) 本州四国連絡橋に視点をあてる

次の資料を用いて、中国・四国地方における高速道路の整備を概観した。



資料「中国・四国地方における高速道路網と所要時間の変化」

「この資料から読み取れることをノートに書きなさい。」

Aさんのノート

- ・高松から3時間で移動できる範囲が広がった。
 - ・道路、高速道路が増えた。
 - ・中国地方から四国地方に来るまでいけるようになった。
 - ・ほとんどの県に高速道路ができた。
- (日本海側、四国にも高速道路ができた。)

ここで、この資料から中国地方と四国地方とを結ぶ高速交通網を確認した。

☆四国と中国地方を結ぶルート

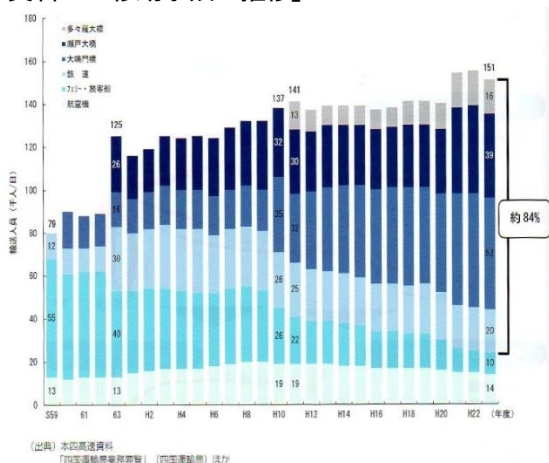
- ・尾道-今治ルート (しまなみ海道)
- ・児島-坂出ルート (瀬戸大橋)
- ・神戸-鳴門ルート
(明石海峡大橋、大鳴門橋)

そして次の学習課題をクラスで共有して授業は終了した。

☆学習課題 「本州四国連絡橋が開通したことでのどのような影響があったのか？」

(3) 2つの資料から考察する

資料1 「移動手段の推移」



「この資料から読み取れることをワークシートに書きなさい。」

Aさんのワークシート

- ・ H 1 1 から多々羅大橋の利用人数が増えている。
- ・ フェリーの利用人数は年々減少している。
- ・ 鳴門大橋の利用人数は年々増加している。

☆資料1から読み取れることは？

- ・ H 2 2 は、鳴門大橋の輸送人員が1番多い。
- ・ 鉄道の輸送人員はあまり変化がない。
- ・ S 5 9 からH 2 2 の間に輸送人員全体で2倍に増えている。
- ・ 瀬戸大橋はS 6 3 にできた。
- ・ 鳴門大橋の輸送人員がどんどん多くなっている。

クラスで資料1について読み取れることを共有してから、グループでの話し合い活動に入った。

「この変化から考えられることは？」

Aさん：H 1 0 年に瀬戸大橋の利用が増えているのはなぜ？

Wさん：H 1 0 年に何があったのかな？

Tさん：直近の3年（H 2 0 ～）で輸送人員が増えているのはなぜ？

このように、考えられることを話し合う活動であったが、なかなか「考えられること」の方向に向

かわなかったので、私はクラス全体に次のような指示を出した。

「黒板にも書いてあるように、船（フェリー）の利用人数が減ったわけだけど、そうするとフェリー会社の人にとってはどうだろうか？」

Aさん：船（フェリー）のお金が減るねえ。

Tさん：てことは、フェリー会社にとってはマナスか？

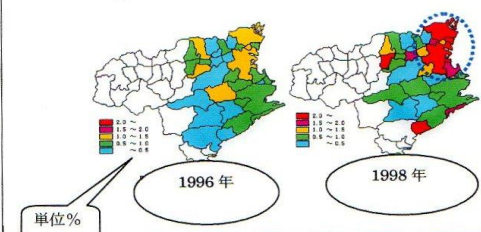
Aさん：本州に仕事に行く人が増えるのでは？過疎化？

Wさん：四国の人車の所持率が上がる？

Aさん：高速道路のサービスエリアの儲かる？

「いろいろな立場になってみて考えるとどうだろうか？では次の資料2も見ていこう。」

資料2 阪神方面への購買流出率(婦人・子供服)



Aさんのワークシート

- ・ 明石海峡大橋が開通してから購買流出率が増加した。
- ・ 西の方はあまり阪神方面へ購買流出していない。

☆資料1から読み取れることは？

- ・ 鳴門大橋のかかった地域とその周りが流出率が上がっている。

資料2についても読み取れることを共有してから「考えられること」の話し合いを行った。

Aさん：これは、徳島県？何で？

Tさん：だから1998年に明石海峡大橋ができたんだよ。

「それまでは、徳島県と淡路島が鳴門大橋で結ばれていたけど、淡路島から兵庫県に行こうと思うとそこからフェリーだったんだよ。」

Wさん：だから1998年なんか？

Aさん：ということは、もしこっちにつながっていたら、そこが都会になっていたかもしれないということ？

なんで半分でこんなに変わるの？

Tさん：購買流出率が上がるってことは、阪神からの観光客が増えて、徳島のお土産屋も儲かるのでは？
あとなんで、右上じゃないところで流出率が上がっているの？

(4) 単元の振り返り

2つの資料の考察を通して、最後に次の資料を提示してこの単元の授業を終了した。



そして、単元のとめとして学習課題に対する考えをノートに記述した。

☆学習課題 「本州四国連絡橋が開通したことでのどのような影響があったのか？」

- ・北陸新幹線敦賀延伸とも関連づけること

クラスの多くの生徒が高速道路の整備には、プラス面だけではないことに気づくことができたようである。以下、Aさん、Tさんの振り返りを掲載する。

Aさんの振り返り

いいことも悪いこともあると思う。最初で私は「お金が増える」と思っていたが、実際は、船の利用者が減り、収入が減る」ことも分かった。他にも本州からの観光客は増えると思った。しかし四国の人が本州に行ってしまうこともあると思った。明石海峡大橋ができて本州へ買い物などに行きやすくなった。自分的には、四国よりも本州の人たちにとっていいことが多かったように思う。

北陸新幹線で考えると、福井に来るよりも出る人の方が多いのではと思う。じゃあどうすれば福井に残るのかを考えていきたい。あと福井に来る人が増えるとそれによる問題も起きそう。

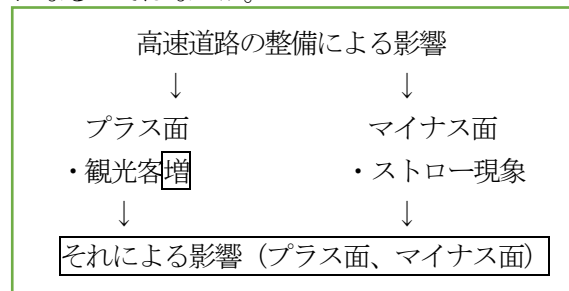
Tさんの振り返り

本州に行きやすくなり、四国に住んでいる人（若者）は本州に行くことが増えて四国にとってマイナスになる。もともと自分は交通網が整備されるとプラスの方が多いと思っていたがストロー現象など自分が思っていた方向とは違うことが起きると思った。

福井に北陸新幹線が開通した時は、福井の魅力がたくさんの人に知ってもらえるなどできると思う。福井がもっと発展できるようにできることを探していきたい。

3. 実践を振り返って

Aさんの振り返りにあるように、交通網の整備によるマイナス面の存在に気づかせることができたと思っている。ただ、全体的にマイナス面が強くなっていることが挙げられる。高速交通網の整備と持続可能な経済発展につなげていくためには、さらに深める活動が必要なのではないかと考える。また地理分野の「日本の諸地域」を通して「持続可能な経済発展をしていくには」という大きな課題を最終目標として授業を展開していかなくてはならないと思っている。ということは、この中国・四国地方の実践がひとつの契機となり、さらに次の課題の出現、解決へと単元をつなげていくべきではないかと思う。図に表すと次のようになるのではないかと。



これからの授業展開として、例えば「観光客が増えることはプラスなのか?」「都市に集中することはどう解決していくべきか?」という課題が考えられる。「中国・四国地方」の単元は終わったが、「日本の諸地域」という大きな単元はまだ継続している。Aさんをはじめとして、「マイナス面もあるが、トータルでプラスにしていけるために、どう考えるか」を意識しながら、実践を積み重ねていきたい。

参考文献 H22 「社会的な見方・考え方を養う中学校社会科の授業実践 広島県廿日市市大野中学校の実践」より